
今思いついた遊戯王小説（仮）

賤燐 龍氏

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

今思いついた遊戯王小説（仮）

【Nコード】

N5136T

【作者名】

賤燐 龍氏

【あらすじ】

とりあえず、この試作品で好評だったら連載も考えてみます。

ある意味、神様に選ばれた主人公が遊戯王の世界を駆け回ります。

すみません。翔と三沢は都合により、『こんなキャラ』です。（もしかすると、連載版も同じかもしれません。）

（前書き）

はじめまして、賤隣 琉氏です。

正直、この小説を読んでもくれる人達は、とても心優しい方々だともいます。

もし面白かったら、感想お願いします。

それ以外でも、アドバイスなどして下さると嬉しいです。

それではどうぞ。

俺は今日、死んだ。

起きたらなんか暗い所にいた。

死んだ理由は分かる。ただ単に、高校の入学式から帰る途中でトラックが5、6台ぐらい突っ込んだから死んだ。それは分かる。問題は、歩いていた歩道橋が突然根っこから折れた上に、その5分後に自転車に7回はねられて、その時に壊れたケータイが燃えて、更に5分後に10人以上の不良にリンチされてまたその5分後にそれが起こったことだ。普通あり得ない。

「俺、神様か何かに嫌われたのかな・・・」

そんなことを一人で愚痴っていたその時だ。

「そのものズバリだろーが！」

振り返ると、杖を持ち、白い布を着た老人がいた。

そーゆーの漫画で見たことあった。

「もしかして、三途の川にいますとかいう死んだおじいちゃんスか？
そう聞いたら、

「何いってんだお前？キチガイかテメー？寝ぼけてんなら永眠させてやろうか、あゝあ！？」とか言われた。もう死んでんのに・・・

「聞いて驚け、俺は神様でついさっき全ての平行世界のお前をみんな殺したけど、さっき母ちゃんに怒られて仕方なくお前を生き返らせてやるから感謝しやがれ。カスが！！」

・・・つか何言ってるのこの人。神様？俺皆殺し？神様に母ちゃんいるの？何より平行世界って何！？

「ググレバカ。説明すると平行世界のお前は泥棒だったり、テロリストやったり、フリーター、詐欺師、今のお前みてーにモテない、さえない、ウザいの駄目な高校生とかいて、本当に面倒でウザかつ

たから皆殺しにしたら、怒られたからお前のいなかった世界に生き返らせてやんだよ。」

説明長いなオイ、要するに勝手に俺を皆殺しにして生き返らせて、ホントどうしたいの？あと何気に俺の思考読まなかった？

「あのー、メンドいんでもう死んだままでいいだ「黙れオラァ！い
いから早よ生き返えれやー！！」

バリバリバリバリバリ！！！！

「にーいやあああああ嗚呼ああああアアあああ！！！！！！！！」

ドサツ！

「いいからそこで死んどけや。テメーの大好きな世界に、テメーと一緒に『大切なモン』だけ持ってってやるからよ……。」

ええー！？何コイツ！下手にしてたら俺の意見全く聞かないで雷落としてきやがった！ジジイなのにメチャクチャ口悪いし！もういいわ、コイツ殺す！殺してやらあ！！

「上等だあクソジジイ！！もうやってやんよ！ブツ殺す……？」
気がつくどジジイがいない。なんか変だ。さっきはあんなに暗かったのに今はむしろ眩しい上に暑い。そして

「俺はホントに誰だっけ……？」
名前を忘れていた。でも場所は分かった。

「もしかしてクル・エルナ村……？」

嘘だろ、つかあり得ねえ、ここって確か遊戯王の中の場所だろ？

「まさかあのジジイ……！！？」そこから先は言うのが怖かつ

!!!!!!!!!!!!

[illegible]

ん？ いちいち変な悲鳴あげんな？ うるせえ。雷を1分間喰らったら悲鳴の一つぐらいするわ。

なんて考えてたら一瞬でまたあの暗い所にいた。するとあのジジイが、

「このカスがあ！」

ドガ！バギ！グシヤ！めきよツ！

何故かモーニングスターで俺を殴ってきた。痛い……。つか最後の『めきよッ!』ってなんなのさ? どう殴ったらそんな音鳴るの? 「いいか糞餓鬼い! テメー今度は一氣にトバしてやつから分ーつたかダボが!」

もう嫌だ……。心が折れそう。今度はデュエルアカデミアの入学試験会場だし……。あのジジイ、何がしたいんだよ。

殺した理由はよく分からない、目的も分からない、ついでに自分の名前は分からない。

何より、服がさつきからずっと同じで通う筈だった高校の制服なのに、バッグの中は俺の遊戯王のデッキとカードとド○えもんの四次元○ケットみたいなものしかなくて、何で腕に遊戯王Rのブラックデュエルデイスクを装着しているのかも分からないし・・・カッコイイからいいけど。

死んでからツツコミ所が満載だ・・・。

もっかい死のうかな・・・とか考えてたら

「おお！？お前も試験受けんのか？頑張れよ！えくと106番？」
今度は後ろに、茶髪で笑顔のクラゲ頭の奴がいた。

「お前、まさか遊城 十代か！？」

思わず俺は叫んでいた。

「な、なんだよ。もう覚えてくれたのか？っていうかお前さ、名前は何てゆーんだ？」

なんか十代って笑ったり照れたりホントに忙しいやつだな。

「えーっと、俺は・・・」

マズイ！名前は覚えてないし、まだ考えてない！でも適当に今考えてそれを呼ばれるのも嫌だし・・・どうすればいい！答えろ！答えてみろルドガー！！

「106番！早く来るノーネ！さもないト、失格にするノーネ！」

一人でネタやってると、さっき十代に負けたクロノス先生が叫んだ。

「ゴメン、また後でな十代！」

「あっ！オマエ待てよ！」

救われたような、救われてないような感じで俺はクロノス先生の所へ行った。

位置に着くと、デッキをセットしていないことに気づき、バッグを開けた。

「ん？何だよこの紙」

見るとさっきまで無かった筈の紙があり、見てみると汚ない字で『やあ、楽しんでるか？私だよ。詳しいことを説明しよう、君が名前を覚えてない理由は君自身と他の平行世界の君とが一つにな

っているからだ。原因は私にも分からず、千年アイテムを盗もうとしたのは泥棒の君の性質が出たせいだ。更には他の世界の君の名前がこんがらがって、名前が分からなくなる始末。口調が変わるのもそうだろう。名前は決めてくれたらいいし、四次元ポケ○トは君の望んだ物が入っている、君の世界のカードは宝玉獣級の希少な物ということにした。頑張ってくれ。神様より』と書かれていた。

また長い……。だいたいのこととたまに変な口調になる理由、俺のカードが使えるのは分かったけど、コイツはアレだな、作文とかで極端に『僕』とか『ですます』使っていたいい子ぶりタイプか、ブ○ーチの藍染みたいな偽善者タイプだな。後どーでもいいけど、四○元ポケットと取り寄せ○ツグが一緒になってるし……。

「早くするノーネ！本当に失格にするノーネ！！」
とても待たせてしまったらしく、先生の白い顔が真っ赤になっていた。

デッキをセットしてっと。

「すみませーん！106番、名前は……翡翠、翡翠って呼んでください！！」

とりあえずは名だけ、姓は後回しだ。由来はこのデッキからだ。つか筆記試験の時はどうしたんだろ？

「翡翠？本当に本名デスーノ？まあ良いノーネ、ワタシに負けて失格になるから関係ないノーネ！」

あーあ、もう目エつけられたのな。これでラーイエローは無いかなあ。先生は十代に負けた腹いせのつもりかな？

「はーい、そんじゃあいきますよ！」

「「デュエル！！」」

《視点 十代》

アイツ翡翠っていうのか。どんなカード使うんだろ？
楽しみだぜ！

翡翠 LP4000

手札5枚

クロノス LP4000

手札5枚

「先攻もらいます、ドロー！僕はチューナーモンスター、ガスタ・ガルドを守備表示で召喚！ターンエンドです！」

翡翠 LP4000

手札5枚

モンスター1体

クロノス LP4000

手札5枚

翡翠の場に青っぽい色の見たことの無い鳥が出て来た。チューナーモンスター！？初めて聞いたぜ！何だよソレ、どんな効果なんだ？
「ウヒョヒョのヒョー、そんなノーじゃワタスイーには勝てないノーネ！ワタシのターン、ドロー！ワタシは手札からメカ・ハンターを召カー！バトル！！その鳥を攻撃、破壊なノーネ！！」

先生の場にモンスターが出て、翡翠のモンスターを破壊しちゃった！

「ガルドの効果、破壊された時、デッキから☆2以下の『ガスタ』のモンスターを召喚出来ます！来い、ガスタの巫女 ウィンダ！！攻撃表示！」

「リクルーター？鬱陶しいノーネ！カードを伏せてターンエンドなノーネ！」

また初めて見るモンスターだ！アイツ、ホントに面白れえ！他にはどんなのがいるんだ！？

《視点 翔》

今度は緑の髪のポニーテールの可愛い娘が出てきた！他にはどんなモンスターがいるのかな？

翡翠 LP4000

手札5枚

モンスター2体

クロノス LP4000

手札4枚

モンスター1体

伏せカード1枚

「（いつもの癖で、サイキック族のウィンダ出しちゃったけど大丈夫かな？）ま、いっか。俺のターン、ドロー！手札からチューナーモンスター、ガスタ・イグルを守備表示で召喚！ターンエンドだ！」
あゝあ、今度は緑の鳥か……。今度は守備力400、また破壊されちゃうのかな？

翡翠 LP4000

手札5枚

モンスター2体

クロノス LP4000

手札4枚

モンスター1体
伏せカード1枚

「まゝたそんなモンスター？勝つ気あるノーネ！？ワタシのターン、ドロー！手札から魔法カード、大嵐発動！！場の魔法、罨カードを全て破壊するノーネ！そしゝて、破壊された罨カード、黄金の邪神像は効果で場に戻ってくるノーネ！2体を生け贄に古代の機械巨人を召カゝン！」

出た！クロノス教諭の貫通能力を持ったエースモンスター！！

「バトル！ガスタ・イグルを攻撃！アルティメット・パウンド！
！更に効果で2600のダメージなノーネ！！！」

翡翠 LP4000↓1400

「クソ！イグルの効果、デッキからガスタの静寂 カームを攻撃表示で召喚！」

「ムキィ！！！！いい加減にするノーネ！ターンエンド！次で終わるなノーネ！！！」

やったあ！また緑の髪の可愛いモンスターが出て来た！！でも先生の言う通り、もう終わりだよ……。

《視点 万丈目》

翡翠 LP1400

手札5枚

モンスター2体

クロノス LP4000

手札3枚

モンスター1体

「万丈目さん、今度の奴は弱そうですね！」

「どうやら、遊城といたアイツはタダの雑魚だな……。全く、クズはクズらしくとっとと失せろ！」

「「ハハハハハハハハハハハハハハハハハハ」」

《視点 明日香》

「これで負けね……。彼、イイトコ無くてとても可哀想だわ。」

「違うな。この勝負、最後まで分からないぞ。」

「……。亮？」

何なの？この人、今日はどうしたのかしら？

「へへっ、燃えてきたぜ！オレのターン、ドロー！カームの効果発動！墓地のガルド、イグルをデッキに戻し、一枚ドローするぜ！」

さっきから元気ね。勝つつもりかしら？

「来たぜ！手札から魔法発動！二重召喚！！このターン俺は2回通常召喚出来る！1回目、手札からガスタ・ガルドを召喚！更に☆2ガスタの巫女 ウィンダに☆3ガスタ・ガルドをチューニング！！えーっと、一陣の青き風よ！敵をなぎ払い、吹き荒れろ！！シンクロ召喚！！来い、ダイガスタ・ガルドス！！」

な！何よあのモンスター？シンクロ召喚？何なのソレ！？初めて聞いたわよ！？さっきから何なの！！

「ガルドスの効果！墓地のウィンダ、ガルドの2体をデッキに戻し、相手の表側表示モンスターを破壊する！古代の機械巨人を破壊するぜ！！」

「あり得ないーノ！さっきから知らないカードばかりで変なノー
n「喰らいな、サイキック・サンダー！！」（今考えた）」

ドオオオオオオオン！！！！！！

グギャアアア!!! またコレデスーノ!!!?」

ガルドスの上のウィンダが杖を掲げたら、杖から突然緑色の雷が落ちて古代の機械巨人を破壊した……。!? というかあの巨人、さっきの遊城 十代とのデュエルではまるで怪獣扱い、今度は戦闘破壊すらされなくてかなり哀れだわ……。

「2回目エ! 手札から召喚師セームベル召喚! 効果で手札から自身と同じ、☆2のガスタの希望 カムイを特殊召喚! 更にイもう一つ! 2体の☆2モンスターでオーバーレイ・ネットワークを構築!!! エクシーズ召喚!!! ランク2、ダイガスタ・フェニクス!!! 効果でエクシーズ素材のカムイを取り除き、ガルドスは1度のバトルフェイズ中に2回攻撃出来る!」

「ちょ、待つノーネ! シンクロとかエクシーズとか、説明して欲しいノーネ!!! 何よりもそんな効果使わなくても、攻撃力1500と1700と2200で攻撃すれば普通に勝てるノーネ!!!」
その通りよ先生! 翡翠、ちゃんと説明しなさい! あの亮でさえ、展開についていけなくて思考停止しちゃってるぐらいなのよ!!!

「るっさいわ先公が! オレ様の目的は一つ、単なる嫌がらせに決まってるだろーがあ! 三体で直接攻撃イ!!!」
ええええええええ!?! 先公呼ばわりの上、嫌がらせでそんなことするの!?! 貴方一体どれだけ歪んでいるの!?!

ドガアアアアン☆

クロノス LP4000↓0

「ンヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨンルムウウウウウ!!! マンマミ」

ア!!!!!!」

「玉砕！粉砕！！大喝采！！！！ワハハハハハハハハハハハハハハハ！！！」

そう叫びながら帰っていった……。本当に何なのよ、アイツ……。クロノス教諭は変なこと言ってフリーズしてるし……。兄さん、私、アカデミア生活がかなり不安だわ……。

《視点 亮》

嫌がらせなものか。俺には分かるぞ、翡翠。本当は自分の力を証明する、それが目的だったんだろう。

遊城 十代、翔、万丈目 準、明日香、そして翡翠、今年の一年生は強いぞ。お前でも勝てないかもな、吹雪……。

「戻っていたの亮？あと、貴方何笑ってるの？」

「フッ、気にするな明日香。」

「????????」

それにしても、何故時々口調が変わったんだ？

《視点 十代》

凄え！アイツも古代の機械巨人を破壊して勝ちまった！

「なあ翔！アイツやっぱ、メチャ強かったな！」

「うん！でもそれより、あの緑の髪の毛のモンスター達、可愛かったよね！よし、ボクも頑張るぞ！！！」

翔も気合い入ってんな！でもたまにニヤケてたのは、正直かなりキモかったぞ？

「あの緑の髪の毛のモンスター、あの杖からみて魔法使い族なのか？調べてみるか。」

「あれ？三沢くん居たの？」

「居たんだ！てか俺、もう空気なのか!？」

《視点　???》

「う・わああああああああああん!!!!!!!!!!!!!!」

その頃、一人の少年が泣きながら童実野町を時速50kmで走っていた。

「どうしょー！原作に関わらないつもりだったのにさあー！十代会って、しかもメチャクチャ目立ったし、既に原作ブレイクしちゃってるかもだしー!!!!!!!!!!あーもう！いつそのこと『イグル召喚↓スフィアード、シンクロ召喚↓ガルド召喚&攻撃↓スクイレル特殊召喚&攻撃』にすれば良かったあ！」とかなんとか。

そして、「そういや、実際のウインダは可愛いくて、カームはキレイだったな♪なあって言ってるバヤびぶう！！れろかんらー（ベロ噛んだー）!!!!!!!!!!!!!!」とも言ってたそうなの。

《視点　翡翠》

待てよ、アレだ！遊星！ボクにも『光り指す勝利への道』が見えたよ！！

「タイムマシーンだ！○魂の銀○んも言ってた！ちよっと！そのお兄ィーさん！ボクと一緒にタイムマシーン探すの手伝って！いいね！？答えは聞いてない！」

混乱した俺はいつもなら絶対に関わらないような髪型の人に話し掛けた。

「ん？もしかして君もそうなのかい？さっきの彼といい、今日は『彼ら』に選ばれた決闘者によく会うな。だったら俺とデュエルして勝てたら手伝うよ。」

今から考えれば、絶対にその『ヒトデさん』に勝てる訳なかった。

(後書き)

いかがでしたか？

『緑の髪の少女』ってどのモンスターだと思いましたか？

しつこいようですが、面白かったら感想を、それ以外でもアドバイスをお願いします。

因みに、感想次第で連載版の翔と三沢の扱いも変わるかもしれません。

最後まで読んでくださって、本当に有難う御座いました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5136t/>

今思いついた遊戯王小説（仮）

2011年10月9日01時40分発行